

第8回大和川流域委員会 議事概要

開催日時：平成17年10月14日(金)15:00～18:00

場所：大阪厚生年金会館 ウェルシティ大阪7階（フロールAB）

委員出席数：出席12名、欠席5名

1. 議事

(1) 第7回大和川流域委員会審議報告

第7回大和川流域委員会審議報告がなされた。

(2) 委員からの情報提供「治水」、「教育・啓発」

(a) 黒田委員：「大和川クリーンキャンペーンにみる子どもたちの認識の変化について」

「子供が変われば親が変わり、親が変われば地域が変わる。」という合い言葉で、「大和川クリーンキャンペーン」の活動の一環として、20年前より絵と作文、写真、ポスター等の募集を行ってきた。その間に大和川についての子供たちの意識は、利便さ故に自然環境を破壊する人間への不信から、親が子供と共に河川の清掃活動に参加するようになって希望がわき、写真の叙情あふれる大和川の風景に接して愛惜の情が広まり、大和川を好きになっていく変化を絵・ポスター・作文・写真の作品のスライドにて紹介。

(b) 仲川委員「大和川流域の治水について」

圏域分割別に浸水被害を鑑みて、2日間雨量での比較、時間雨量での比較による被害状況整理、内水氾濫、流域の現状などから考えた治水計画についての私案、及びスーパー堤防の推進、亀の瀬狭窄部対策、総合治水対策などの必要性について説明。

(3) 質問に対する回答など

河川管理者から「質問に対する回答など」についての説明がなされた。

(4) 大和川の「治水」について意見交換

主な意見及び補足説明は以下のとおり。

(a) 空間利用

- ・川と遊ぼうということに住民と一緒に真剣に追求しながら川を見守り、遊べる川辺を点から線に、線から面にしていくということを本気で考えないといけないと思う。

(b) 利水と環境

- ・委員からの説明では、大和川流域の河川環境を保全するために、不足している水を他水系に依存せざるを得ないとするが、現実問題としてどのくらい可能性があるかと考えるか。
- ・他水系への依存は、現在、県営水道で50.4%（平成15年度）、農業用水では60.5%（平成16年度）と聞いているが、支川の上流から少しずつでも水が絶えず流れるよう、冬場における他河川からの分水をお願いしたい。
- ・利水という点では、奈良盆地部における地下水の上手な利用の仕方というのを考えておくべきではないか。

(c) 治水

- ・川というものは洪水があれば氾濫するものだから、自然は良いものだけど怖い面も持っているということについて、自分も含め日本人全体が最近鈍感になってきていると感じる。防災に関してソフト的な面で、日常的に活動されている委員の考えを知りたい。
- ・台風の時などの初期段階では、自分のところは自分で守るという初期防災をやらなければならない。

- ・統計期間を近年までとした雨量確率計算結果から見ると、雨量の評価が少し小さくなるグンベル分布での評価を現在の計画の基本としているが、そのことに問題はないのか。
- ・もう少し大きな雨量を対象にすべきではないか、雨量の見直しをすべき時期ではないか、という議論はあると考える。色々な手法をとっても200年確率の雨量としては工事実施基本計画の280mmぐらいいは出そうだという事を今日は説明した。
- ・亀の瀬の河床が隆起しているというデータから、ある程度工事が完成した時点で亀の瀬の河床を下げることは必要と考えられるか。また、1982年の水害の後、亀の瀬の狭窄部に地下トンネルを造って流すことを検討されている。その時の検討の資料があれば提示していただきたい。
- ・大和川の特徴として中流域の狭窄部の疎通能力を高めることは非常に大事だと考えている。河道をどこまで広げるかについては、上流への効果、下流への影響とその対策、コストと工期などを技術的に検討し、選択肢をしっかりと用意することを考えている。

(5) 第1回～第7回の委員会の意見集約例について

- ・それぞれ持ち場のジャンルが違う人間が、みんなの意見を聞きながら考えてきたというプロセスは非常によかった。委員全員がお互いどういう意見を持っているのか、それを知ることを通じていくことが大事だと思う。
- ・河川管理者の方が原案を出して、その当否について流域委員会は検討すると理解していた。集約するという事は、原案をつくるに当たってある一定の施策的なものの集約点を河川管理者に示すことになるのか。
- ・河川整備計画の原案の「たたき台」を河川管理者が出し、我々がそれについていろいろ意見を言うというのが基本的なスタンスと考えている。我々がこれまで議論してきた意見を的確に言うためそれを計る物差しをまとめておくという意味での意見集約である。
- ・河川管理者から出てきたものに、意見を述べさせてもらって、完成させていくのが一番良いと思う。
- ・それぞれの専門分野でのワーキンググループとしてまとめるということよりも、時間はかかるが、専門外のこともみんなで従来やってきた方法でまとめる方向のほうが良いという印象を持っている。
- ・集約といっても、1つのものに絞ってしまうイメージではなく、色々な意見の併記でも良いと思う。この「委員会の意見集約(整理)例」のようなものだけでは、今後いろいろ我々としても扱いに困るのではないかという気がするので、少し整理が必要ではないか。
- ・河川管理者が委員に対して何を求めているのか、また、委員として意見集約がどの範囲まで可能なのかお聞きしたい。
- ・最初から河川整備計画の案を出して議論するのではなくて、これまでいろいろな立場の違う方々から良い意見が寄せられていると思っている。頂いた意見も反映させながら、今後整備計画のたたき台を示したい。整理した意見をもう一度確認して頂き、足りないところ、修正する所を指摘していただければ十分である。
- ・「環境教育・住民啓発」を1つのカテゴリーとしてさらに追加する。
- ・Cプロジェクトの作成に当たっては、一定の施策が出てくると思うが、第10回に骨子を出す時点でCプロジェクトが反映されていくのか。
- ・Cプロジェクト計画は、2010年までに何をやるかという計画であり、20年、30年でやっていく河川整備計画の一部先取りと認識している。大体の構想は、年度内に固めていきたい。

2. 現地視察会について

委員へのアンケート結果による視察ポイント、および流域委員会で議論の対象となった箇所を盛り込んだ庶務からの視察ルート（案）で了承された。また、現地視察会は11月22日に開催し、11月25日が予備日であることが報告された。

3. その他

第9回流域委員会の日程について、12月中旬開催を目途に、速やかに調整しお知らせすることが報告された。

以上